



外部販売も視野

日立ソリューションズ・クリエイト(東京都品川区)は、独自に開発していたマイクrosoftのコミュニケーションツール「マイクrosoft・チームズ」をそのまま活用できる仮想オフィスの全社展開を始めた。5月から一部の従業員で社内検証を進め、一定の成果が得られたため10月



通常のオフィスレイアウトではないオフィスマップも用意し、遊び心を入れた

## 日立ソリューションズ・クリエイト 仮想オフィス 全社展開

### テレワーク時のコミュニケーション支援

から全社での展開に移行。24日から約3400人での運用をスタートした。本格運用後も随時機能アップを進め、外部への販売も視野に入れていく。本格運用を始めた仮想オフィスは、在宅勤務などテレワーク時でもまるでオフィスに出入りしているような感覚で働ける仕組みだ。



雑談ルームでは、仕事以外のことも含めてすぐに雑談できる



チームでのコミュニケーション改善を目的にチームボードを用意。チームメンバーの状態などもすぐに分かる

「チームズ」の使いにくい点を補完し、グループチャットをはじめとしたコミュニケーションを改善できる機能を拡充した。本人のアイコンには一言コメントを付けたり、現在の気分なども表示したりでき、アイコンからすぐにチャットなどもできる。

## 勤怠管理など社内システムと連携

い効果を得るための機能が明確になった」(中村副本部長)。実際、約6割が「継続して使用したい、他部門でも使用してもらいたい」という回答だった。本格運用した仮想オフィスは、アンケート結果から、より気軽に手軽なコミュニケーションができる機能と、チーム作業を支援する機能を強化した。開発を手掛けた経営戦略統括本部の左近允晃主任技師は「リモートワークでもチームで協力しながら働ける空間と、より気軽にコミュニケーションを取れるようにしたい」と話す。

スマホからも参加

オフिसマップは360度のパノラマビューに加え、実際のオフィスと異なるオフィスマップを開発。温泉旅館やキャンプ場、海水浴場などをイメージしたマップも用意した。アイコンには気軽に会話や雑談ができるコメント機能や返信機能もつけた。気軽に会話ができる「雑談ルーム機能」も追加し、会議室やカフェに顔アイコンを移動するだけで気軽に部屋にいる人とグループチャットでの

開発の背景には、コロナ禍で進んだテレワークによる業務効率の低下があった。日立製作所グループで行った調査でも、在宅勤務者の効率低下の割合が他社と比べても大幅に高かった。「この課題を解決するために自社開発のツールを使い検証することにした」(中村勝彦人事創夢本部副本部長兼総務部長)という。まずは試作版のツールを5月10日から7月2日まで、全従業員の1割にあたる約400人で実証した。実証後に行ったアンケートでは「有用性と一定の効果が確認できるとともに、より高

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。